

## 令和6年度秋田県環境審議会第3回八郎湖水質保全部会議事録

1 **開催日時** 令和7年1月28日（火）14時～16時30分

2 **開催場所** さきがけホール セミナールーム

### 3 出席者

◆委員10名中9名出席（うち1名代理出席）

片野部会長、金委員、菊地委員、永吉委員、宮田委員、景山委員、金田委員、西村委員  
荻野委員（無量林農村環境課長代理出席）

◆オブザーバー

八郎湖研究会藤林委員、東北農政局仙臺環境保全官、東北農政局八郎潟農業水利事業所  
古木次長、東北農政局八郎潟農業水利事業所秋本環境専門官

◇秋田県

大石八郎湖環境対策室長、他室員5名

◇パシフィックコンサルタンツ（株）

上原技術課長、東海林技術課長

### 4 議事

#### 【審議事項】

#### 審議事項に関する質疑（意見）応答の概要

##### （1）第4期水質予測モデル（案）等について

◆委員

参考1、p52において、湖水質変化の再現性が4～7月頃にずれが見られるとの説明であった。この時期は管理水位を上昇させるため、湖に水を溜め込むこととなり、湖水の滞留時間が長くなるという特徴がある。この水位変化を踏まえた計算になっているか。

◇パシフィックコンサルタンツ（株）

参考資料1、p39のとおり、水位のデータを整理し、モデルに反映している。

◆委員

参考1の「5. 流域水収支・物質収支」についてお聞きしたい。水収支について、p64では年度毎の各水域の流入量（プラス）と流出量（マイナス）をそれぞれまとめた図となっているが、1年間の流入量と流出量を合算した、トータルの水収支をまとめたような図は今回の資料中にあるか。調整池を見たとき、流入量よりも流出量の方が多いように見えるが。

◇パシフィックコンサルタンツ（株）

トータルの水収支をまとめた図は今回準備していない。調整池は東部承水路と繋がっているため、この2つの水域の流入量と流出量をあわせて見ると、水収支がとれている。

◆委員

何と何が合えば、水収支がとれているのか、とれていないのか、どのように判断するのか。

◇パシフィックコンサルタンツ（株）

調整池と東部承水路においては、両水域の流出入のトータルが一致するかどうかで判断している。

◆委員

その場合、西部承水路の水収支は関係ないという理解でよろしいか。

◇パシフィックコンサルタンツ（株）

そのとおり。西部承水路は別の水域として整理しており、こちらは西部承水路の流入流出量で水収支を見ていることになる。水収支がゼロになるように、最終的に河川流量で調整している。

◆委員

つまり、河川流量を調整して水収支を合わせた結果が p64 の図であり、水収支そのものが合っている、合っていないということではないということか。

◇パシフィックコンサルタンツ（株）

そのとおり。参考 1、p38～39 で 14%ずれているという説明をさせていただいたが、そのずれを直して整理したのが参考 1、p64 の図である。流域からの流入量は、河川流量の連続データがないため、ポンプ機場の排水量や農業取水量、湖水位の変化といった実測値をもとに逆算して求めている。それが逆算値で、相関プロット図の横軸である。縦軸の計算値とは、流域モデル、つまり、上流の降雨等をもとに算出した河川流量である。西部承水路では、プロットが右下に偏っており、計算値と比べて逆算値が大きくなっている。これは補正する前の状態である。このまま河川流量として計算してしまうと、河川流入量が足りないということになってしまうため、計算値に補正をかけている。

◆委員

そうすると、検証として、逆算値が合っているか、流域モデルの計算値が合っているか、わからないのではないか。流域モデルによる計算値は、色々な理屈で出てきた値なので、そのとおりと言われればそのとおりかもしれない。一方で、逆算値は水収支から求めたということだったので、それがいい線をいっているのか、それともずれているのか、その程度はどれくらいなのか。その感覚がわからない。

◇パシフィックコンサルタンツ（株）

逆算値の求め方は p38 の左側にお示しした計算式のとおりで、各実測値をもとに計算した値であることから、概ね確からしいと考えている。

◆委員

河川流量がわからないため、その他の実測値から決めたということだが、その計算がもっともらしいという検証は何かできないものか。

#### ◇パシフィックコンサルタンツ（株）

現状あるデータを使って、足りないデータをどう補完して確認していくかということを考えたとき、その手法のひとつとして、今回逆算値を使ったという整理である。

#### ◆委員

やれることを十分やっただけという事は理解した。このモデルを使って最終的に対策を評価する必要があるわけだが、数値を合わせたというよりは、様々わからないところがあるという事実を踏まえたうえで、計算したらこのような結果になったということ整理しておくことが重要である。結局、どのくらい合っているのか、ずれているのかという感覚が非常に大切だが、その感覚がピンとこない。

#### ◆委員

水質の将来予測の設定条件として、基準年の気象条件を使って10年後の水質の変化を見るところのことだったが、近年であればWRFモデルを使って将来気象予測をするケースが多くなってきている。昨今の極端な気象変化を踏まえた検討が必要であり、単年の基準年を設けるよりも、WRFモデルを使った方がより将来予測の精度が高まると考えるが、そのような検討は行わなかったのかお聞かせいただきたい。

#### ◇パシフィックコンサルタンツ（株）

実際に将来起こり得るという意味での将来予測をするうえでは、ご指摘いただいたように気候モデルでの将来気象予測データを使った水質予測を行い、それを踏まえた対策を検討する方法がよいと考えられる。一方で、今回の水質予測モデルを使って将来予測を行う目的は、湖沼計画の策定にあたって各種対策による効果、こういう対策をやったから良くなった等の評価に向けたアウトプットを行うためのシミュレーションである。基準年と目標年の気象条件が変わってしまうと、対策による効果の是非が判断できず、対策をしているのに水質が何も変わらない、といったような結果の見え方になってしまうことも考えられる。このため、水質目標値を決めるにあたっては、気象条件は揃える方向で整理を進めたいと考えている。おっしゃるとおり、今後の気候変動適応策を考えていくという視点では必要と考えるが、今後の課題として整理させていただきたい。

#### ◆委員

資料1、p9のとおり、これまでは基準年を決めて水質目標値を検討し設定してきたわけだが、昨今の気候変動や八郎湖は気象によって劇的に変化する湖沼であることを鑑みると、単年度で基準年を設ける手法には以前から疑問があった。別のやりかたも検討いただければと思う。

#### ◇パシフィックコンサルタンツ（株）

ご指摘のとおりと考える。今回お示ししたやり方は、あくまでも一例であり、今後、基準年や目標値の議論を進めていく中で、委員の皆様からご意見をいただきながら検討を進めてまいりたい。

## (2) 第3期湖沼水質保全計画における対策の評価について

### ◆委員

達成状況何%でAとか、数値化してもらえればわかりやすいと思う。

### ◇県

承知した。数値を設定できるもの、設定が難しいものがあるため、そのあたりを踏まえながら検討してまいりたい。

### ◆委員

緩効性肥料のプラスチック被膜がマイクロプラスチック発生の要因の一つとなっているわけだが、現在メーカーと協力してより砕けやすいものへと改良を進めており、今後普及するものと思われる。周辺の農家さんは環境に敏感で関心が高いので、県からも新しい肥料の周知をお願いしたい。

### ◇県

講習会等の機会を捉えて、引き続き周知に努める。

### ◆委員

多自然型河川づくりとは何か。河川工事をしていくという意味なのか。対策室の「努める」とは、具体的にどの程度の意味合いであるか。

### ◇県

河川改修計画には、環境や生態系に配慮する内容が盛り込まれている。対策室主体で何かするというものではなく、県建設部など関係部局と連携しながら環境や生態系に配慮した取り組みを進めていくというのが本項の主旨である。

### ◇県

国交省でも河川改修の方針を示しており、実際に洪水対策等で河川改修を行う場合にはこの考え方を基に進めている。委員のご指摘のとおり、八郎湖を作った時代はこのような考え方がなく、生態系の保全等に配慮するという認識はなかったと思われる。

### ◆委員

今回示された第3期計画のスコア評価に基づき、次の第4期計画の対策をどうするか検討していくことになると思うが、効果の有り無し、費用対効果によって継続性の判断をしているようだが、参考3のように水質改善面での寄与率等のような継続性の判断の根拠を出していただきたい。ものによっては、技術的な判断から継続性を判断するケースもあると思うが、もしかしたら今後の技術開発によって可能となる場合もあるかもしれないので、そのあたりの整理をしっかりとっておいたほうがよいと思う。

### ◇県

承知した。次回の部会で整理したものをお示ししたい。

### ◇県

委員からのご指摘について、今回お示しした達成状況等は第3期計画についての評価となるが、将来的に第4期計画の対策の評価を見据え、評価を前提として対策を検討していく

という筋道を考えているところである。

◆委員

「漁業による窒素・リンの回収」の達成状況がDで未達成、継続性がdで代替案検討となっている。一方で、長期ビジョンでは「農業や漁業など湖に関わる人々に持続的な恵みをもたらす」を掲げており、地域の資源循環や漁業を含めた社会的な活動の持続性を考えると、今後漁業を積極的に増やしていくというのは難しいかもしれないが、なんとかここは現状維持で、地域の漁業を守っていくようなものを目指していただきたい。必ずしも湖内浄化対策としては窒素・リンの回収効果と継続性の点から難しいかもしれないが、長期ビジョンや地域社会という視点も含めてしっかり検討していただきたい。農業、漁業という面をしっかりと捉えていくことで、地域社会を守ることにつながるので、水質だけではなくその当たりの取り扱いも考えてみたい。

◆委員

富栄養化した水質の中で魚の養殖がどのように影響を受けるかといった知見がなく、はっきりとしたことは言えないが、豊富な窒素・リンを活用できるようであれば、それもひとつの方法かと考えた。どんな魚種が適しているか、どれだけ窒素やリンの回収効果が見込めるかはわからないが、八郎湖は浅いものの、面積が大きいので、養殖で活用してみるということを考えてみるのも面白いかもしれない。

◇県

委員のご意見について、今後どのような位置付けとするかは別として、継続の方向で整理してまいりたい。また、菊地委員からご意見のあった養殖については、調査研究という位置付けの中で検討してまいりたい。

◇県

養殖の視点は興味深く、漁業者の方が高齢化する中、特に若い人で興味を持つ人がいると思う。現在の沖の漁業だけではなく、水辺の漁業にもシフトしていくことで、水辺の生態系の健全性を活かしながら魚を育てていけるような取組もあわせて検討していきたいと思うので、今後もしもご助言等いただきたい。

◆委員

植物プランクトン→動物プランクトン→魚類→人の循環がうまくいけば、理想的な水質浄化プランになると思う。人も潤うし、自然も豊かな状態になるので、目指すべきところはそこだと思うので、そのサイクルを作っていきたいと思う。昔はケイ藻類が優占しており、それを食べる動物プランクトンも多く魚の餌となっていた。アオコを積極的に食べる動物プランクトンはおらず、食べ残しが水質汚濁の原因にもなっている。できることなら、動物プランクトンが利用できる植物プランクトン相が増えれば、自ずと魚も増えてくるのではないかと思う。

### (3) 第4期湖沼水質保全計画について

#### ①第4期湖沼水質保全計画策定の方針（案）

方針、計画期間等について、特に意見なし。

#### ②国営かんがい排水事業における八郎潟地区の水質保全対策について

##### ◆委員

無駄な用水が減るとのことだが、最終的に各ほ場から出た水は排水機場に集まり、排水機場の水は少なくなることになると思う。一方で、各ほ場からの負荷量は変わらないと思うので、希釈効果がなくなり、濃度が上昇するのではないかと懸念している。

##### ◆東北農政局八郎潟農業利水事務所

ご指摘のとおり、水量は減る一方ではほ場からの排水量も減り負荷量は減る。ただし、濃度は変わらないことになる。その対策として、新たな支線排水路に沈砂池を設置することで、水路の中で浮遊物由来の汚濁負荷を沈降させることで負荷濃度の抑制を図る計画となっている。

##### ◆委員

干拓地の規模を考えると、沈砂池の維持管理が大変だと思うが、管理主体はどこか。かなりの労力となると思われるが。

##### ◆東北農政局八郎潟農業利水事務所

支線排水路の管理は、地元の大潟土地改良区が管理することになる。労力がかかることになるが、それも含めて地元との合意形成のもと進めていく計画となっている。

##### ◆委員

そこが一番のキーポイントと考える。

##### ◆東北農政局八郎潟農業利水事務所

地元からの要望があって実施している事業という位置付けであるため、しっかり相談しながら進めていくことになると思う。

##### ◆委員

沈砂池はうまくいけば非常に効果が高い負荷削減対策だと思う。設計のコンセプトはどのようなになっているか。沈砂池に入ってくる流量や水面積負荷率、粒子分布といったパラメータから設計しているものと推察されるが、そのあたりの情報があれば教えていただきたい。

##### ◆東北農政局八郎潟農業利水事務所

直接の設計担当者ではないため推察となるが、他地区の前例をもとに設計しているものと思われる。

##### ◆委員

模式図を見ると、支線排水路の途中から凝集剤を投入するというになっているが、凝集剤による検証は実際にやられているのか。それとも、普通沈殿だけで検証しているものか。

◆東北農政局八郎潟農業利水事務所

支線排水路を管理している土地改良区が実証試験を行っている。代かき後にデータをとっており、結果は当方とも共有している。凝集剤の使用にあたり、土地改良区からはかなりの費用がかかるとの課題を聞いている。

◆委員

大潟村の土壌粒子は非常に細かく、普通沈殿だけでは粒子をとり取り除けず、文字どおり砂しか沈降しないと考える。八郎湖の水質を考えたとき、一番の課題が沈降しきれない細かな粒子であり、その対処が一番重要になる。凝集剤を使えば使うほど沈降効果はあると思うが、使った分だけ汚泥、それも含水率が非常に高い汚泥が増えることになる。どこかに移して乾燥させるといったやり方もあると思うが、いずれにせよ処分方法や再利用方法を考えておく必要がある。また、凝集剤にも色々あり、PAC（ポリ塩化アルミニウム）系を用いると、当然アルミの量が多くなることになり水質上の問題が懸念されるため、それも含めて検討していただければと思う。

◇パシフィックコンサルタンツ（株）

やるかどうかは別として、将来的な水質シミュレーションに国営かんがい事業の効果を組み込むとした場合の設定条件の整理の考え方としてお伺いしたい。取水管理によって約3割の取水量が減るとのことであったが、p22の棒グラフを見ると、水量の割合に季節変動があるように見て取れる。取水している期間は平均して取水量が3割減るといような理解でよろしいか。シミュレーションのデータ設定を考えたとき、八郎湖の水の回転率は水質の結果にも影響してくるので、単純に取水量が3割減るといふ数字の捉え方でよいものか教えていただきたい。

◇東北農政局八郎潟農業利水事務所

現時点でお答えできない部分もあるが、年間通じて取水量が3割減るといふ考え方ではない。

◇パシフィックコンサルタンツ（株）

調査を実施した地点で平均して取水量が3割程度減るといふことでよろしいか。

◇東北農政局八郎潟農業利水事務所

そのとおりである。

◆委員

漏水箇所の修復等も行うと思うが、いつ頃完成するのか。

◇東北農政局八郎潟農業利水事務所

現在は開水路となっているものを水道管のようにパイプライン化し、まるっきり新しいものになる。開水路の場合、水路が下がってくると分水口まで水が届かないという問題が生じることから、水位をかせぐため水の量を多くする必要がある。パイプライン化することで、高低差も込みで無駄なく水が行き渡らせることで、クイックでタイトな水使いが可能となる。既設水路の老朽化もありパイプライン化優先順位の高いものから順次進めていく。

◆委員

すべてのパイプライン化が完成するのはいつ頃か。

◇東北農政局八郎潟農業利水事務所

令和 21 年度を予定している。先端まで全てパイプライン化してはじめて、現在試算している効果が見込めることになる。

◆委員

幹線排水路の末端に濁度計なども設置して、水管理と一緒に水質のモニタリングもしていただくことも検討していただきたい。

◇県

検討してまいりたい。

#### (4) その他

◆委員

第 3 期計画と第 4 期計画とで色々異なってくる点はあると思うが、今後中長期的に八郎湖を考えたとき、底泥の蓄積・悪化に注視しておく必要があると考える。今後様々な対策を講じて、内部負荷により問題が発生することが懸念される。中長期的に見たとき、徐々に問題が顕在化する可能性もあるので、しっかりモニタリングしていく必要があると思う。宮城県の伊豆沼では今の時期でもアオコまではいかないが藍藻類の発生が確認されている。温暖化の影響と考えられるが、冒頭、室長からも八郎湖でも結氷しなくなったとのお話があったとおり、東北各地でも同様なことが起こっている。そうすると、冬期間や水の動きがない非かんがい期でも藍藻類が発生し、今後問題となってくるかもしれない。伊豆沼では 2～3 月に藍藻類が発生し、下流 50 k m の石巻で水道水のカビ臭が問題となった事例があった。これまでは COD が高いものの、目立った利水障害は発生していなかったと認識していたが、それは完全に誤解だったことになる。温暖化による影響は様々あり得ると思うので、第 4 期計画の策定にあたっては、これまでのデータ等をよく見ながら、懸念事項としておさえておいた方がよいと考える。

◇県

近年、豪雨によって大規模な出水があり、上流からの相当量の土砂が八郎湖内に流入した。これまで蓄積した底泥は流されてしまい、逆に窒素やリンを豊富に含んだフレッシュな底泥に入れ替わった可能性も考えられるのではないか。それが水質シミュレーションの結果と実測値とが合わない要因にもなると思われるが、その点についてご助言等いただきたい。

◆委員

10 年以上も前の話になるが、湖内では 8 月や 9 月にリン濃度がピークとなるが、河川河口部では 6 月にピークが出ていた。これは河川の河口部に土砂が堆積し、4 月から湖内に水を溜め込み河川水が停滞し成層しやすくなることで、底泥からの溶出が起こるものと考えられる。河川河口部の底質を調べてみるのも、湖内の水質を予測する目安のひとつになり得

るのではないか。堆積物の調査はあまりやっていないと思うので、データをとっておいたほうがいいかもしれない。

#### ◇県

検討してまいりたい。

#### ◆委員

八郎湖に関する情報を集めるという内容が計画に盛り込まれているが、景山委員から何か情報発信の手法についてコメントをいただけないか。

#### ◆委員

今後10年間で八郎湖流域の人口は間違いなく減る。その一方で、八郎湖の環境を守っていくかということを考えたとき、地域住民が「八郎湖っていい湖だな」と思ってもらえることが大切な要素だと思う。そういった意味で、情報を発信する、または受信するようなプラットフォーム、八郎湖の現状や風土や文化、地域の皆さんや自治体が思っていることなどを情報発信したり、それを使った交流ができたりするような場所を整備していくことが重要と考える。今後10年間でデジタル技術は飛躍的に進歩すると思う。水質保全を考えるという面でも、デジタル技術を活用していくことが必要ではないか。これまでは八郎湖の水質の悪化という情報はあまり良いものではなかったと思うが、全く情報を発信しないと次第に関心が薄れていってしまうのも問題である。多少マイナスの情報が入ってしまうかもしれないが、それも含めて情報を発信し続ける仕組みを作っていくことが重要と考える。

#### ◆委員

昨年、八郎湖流域の空間分布図を作成した。よく「八郎湖は汚い」と言われるが、空間分布図を見ると、八郎湖が汚いというよりも周辺河川（機場を含む）の濃度が高いことがわかる。流入河川のうち馬場目川は流量が大きく、かつ濃度の低い川であるため、結果として流入河川の濃度が平均化されていることになる。「八郎湖は汚い」だと、川はきれいだけど八郎湖は汚いというイメージになってしまい、現実と異なる。各河川濃度の平均値が八郎湖の水質になるわけだが、たまたま一番大きい河川が非常にきれいな水であるため、その他の川（機場を含む）が汚れていても湖の水質をまあまあ保っていることになる。この状況を上手く皆さんに納得してもらわないと、八郎湖が汚いという誤認だけで誰も手を出さなくなってしまうと思う。その辺りを上手く周知することで、川（機場を含む）をきれいにしようという意識にもっていければ、八郎湖もきれいになるのではないか。情報の発信や互いの意見を聞き合うといったことが重要だと思った。

#### ◆委員

お話いただいたとおりと考える。10年後を考えたとき、労働人口、特に若い人たちが地域で過ごしていくためには、八郎湖の資源を上手く活用した産業や生活する部分を提供していくことも重要な要素になってくると思う。

#### ◆委員

八郎湖の魅力を発掘していただき、情報を発信していただくのが一番いいかと思う。八郎

湖の写真展なんかがあってもいいかもしれない。

◆委員

昔の写真を提供してもらい、風土的な記録を発信するだけでなく、保存するような仕組みもあってもいいかもしれない。いずれにしても、八郎湖の魅力とそこに暮らす人が八郎湖という地域資源に自信を持って暮らせるという視点からも情報発信できればいいと思う。

◆委員

県立大学には八郎湖の書籍をまとめた文庫コーナーがあったと思うので、そういったものを活かしながら、単に汚いという部分だけではなく、多面性をアピールしていただければと思うのでよろしくお願ひしたい。

◇県

承知した。

◆委員

八郎湖のあるべき姿の検討状況について進捗をお聞かせいただきたい。

◇パシフィックコンサルタンツ（株）

本日時点では資料として配付していないが、現在、八郎湖の長期ビジョンについて検討作業を進めているところである。ご承知のとおり、現在の長期ビジョンは令和8年度を目標年としているため、第4期計画期間中に目標年次を迎えることになることから、今回の湖沼計画見直しとあわせて、長期ビジョンの目標年次も再設定を行い、内容の方も変更する方向で検討をしているところである。本日の議論や今までの様々な議論を踏まえて考えたとき、やはりこれまでの水質だけを見ていくというよりは、八郎湖をいかに豊かにしていくかという視点に立って長期ビジョンを更新していくことが必要と考える。次回の水質保全部会では資料を提示させていただくが、その前には八郎湖研究会等で先生方からご意見をいただければと考えているところである。

◇県

昨日、県の2月議会に向けた予算の内示を行い、来週から2月議会が始まり来年度予算の審議が行われる。先ほど策定方針の所でもご説明したとおり、基礎調査等も含め、継続するものについては予算要求しているので、本日ご意見いただいた内容も踏まえながら対策の組み立てを行い、次回に向かってまいりたい。

◇県

先ほどパシフィックコンサルタンツから説明があったとおり、長期ビジョンの検討も進めつつ、評価手法の検討も次回行うことになる。3月に八郎湖研究会を開催することとなっており、あるべき姿や補助指標、評価手法を検討し、第4期計画ではきちんと根拠をもった評価をできるようにしてまいりたい。

◆委員

野鳥の数や種類も多いため、アピールできることはいっぱいあると思う。余談だが、自分で水質調査をしていて面白かったのが、馬場目川で砂鉄を目にした。かつては鉄が採れ

ていたらしく、南秋地域には遺跡なんかもあったと聞く。鉄はアオコの発生と関係があるとも言われているため、昔を掘り起こしてみると、意外と面白いネタが出てくると思う。

#### ◇県

前回の部会において、今後の水質目標の在り方を考えていくうえで、水質の状況と利水障害について整理しておいた方がよいとのご助言をいただいたところである。今回の資料には間に合わなかったが、令和5年度に環境省が全国の都道府県を対象にアンケート調査をした結果について同省から提供いただいたので、追って各委員にも共有させていただきたい。

#### ◆委員

COD、窒素、リンの数値の検討も必要だが、先ほどから議論のあったとおり、やはり八郎湖を今後どう利活用していくかを考えたとき、CODをいくつにするかという目標が最初にくるものではないかもしれない。脱炭素が掲げられるこの時代に、エネルギーをかけて水質をよくするというのも少し違うと思う。目標としてCODや窒素、リンをどう決めていくかという議論は進めていくものの、少し方向性を変えてもいいのではないかと思った次第である。環境省も考え方が変わってきたり、海域の貧栄養化が問題となったりと、今までと状況が変わってきたので、これまでの延長線上で水環境をどうするかという議論をするのは難しい時代となってきたと考える。

#### ◆委員

大潟村の農家では、肥料は窒素単体の場合が多い。近年値段が高騰しているリンやカリウムといった肥料をほとんど入れていない。八郎湖の水から供給されていることになる。いつも難しいと思うのは、きれいな水であることと、大潟村の農家が高い肥料代を負担せずに済む濃度の水であることの折り合いをどうつけていくかということである。ある委員のデータを見せてもらったことがあるが、かつてのきれいな水よりも、少し富栄養化した方が、魚がとれていた。これを考えると、数値目標設定をどこにするのか、悩ましい問題でもある。

#### ◇県

現在、長期ビジョンの検討について委員からのヒアリングを進めているが、その中で、「これまで対策という言葉が使われてきたが、別の言葉を使うのが適切ではないか」といった意見をいただいている。ある県では「施策」という言葉を使っている事例もある。八郎湖環境対策室という名前なので、対策という言葉に縛られてきたのかもしれないが、農業や漁業にいかに関与するかといった視点で考えると、対策ではないと思う。そのあたりの考え方を変えさせていただき、次の部会において具体的な検討を進める中で、委員の皆さまからご議論いただきたい。

#### ◆委員

環境基準ができた当時は全てが汚れていたもので、人が心地よく快適に住みやすいという観点から水をきれいにしなければならないという発想になったと思われる。時代が進むにつれて「人が快適に過ごせる」ことが必ずしも「きれい」だけとは限らないというように価

値観が変わってきている。その価値観にあわせて八郎湖をどう心地よい場所になるのかと  
いうことを見つけていかないと、施策も上手く当たらないし、当てていくことがこれからの  
行政の役目なのかもしれない。

以上